

## 基本データ

手術内容：皮下乳房切除、膣式子宮附属器全摘手術（膣式子宮卵巣摘出術）

手術病院：ガモンホスピタル

入院期間：4泊5日

同行者：あり（同一手術を受ける友人）

年齢：30才

身長：163cm

体重：63kg

既往症・持病：金属アレルギー

特記事項：特になし

体験記(2012/01/14~2012/01/22)

1月14日 タイ滞在初日(渡航日)

16:30頃に空港に到着するも入国管理が混んでいたため、飛行機到着後1時間以上経ってから待ち合わせ場所へ到着。待ち合わせ場所へはGUIDEBOOKの通りに行けばよいので楽だった。空港から事務所へ30分ほど移動し、夕飯をいただいた後に清算。夕飯をいただいたあとに滞在先のコンドータウンに移動。

1月15日 タイ滞在2日目(カウンセリング)

13:00にコンドータウンまでお迎えあり。ラム9世病院では初診のカード発行等々を行ってから診察室のある待合室へ。診察自体は10分足らずで終了。日本のGID診断書を持っていれば簡単な質問のみで発行されるとのこと。質問内容としては

- ・いつからフルタイムで働いているか
- ・両親は手術することを知っているか
- ・手術は怖くないか？
- ・ホルモンがいつから打っているか

等々。

日本のGID診断を受けたことある人にはお馴染みの質問ばかり。自分史とか忘れていたので年号とかかなりうる覚えで答えましたが、特に問題はありませんでした。

1月16日 タイ滞在3日目(カウンセリング)

朝、9:00にコンドータウンまでお迎えあり。ガモンホスピタル3Fにて術式等についてのカウンセリング。

普通であればこの日に入院し手術となりますが、私の場合は友人とのペア PKG に来ているため、この日が友人・翌日が私のオペ日となる。まずはガモン先生と、カウンセリング。何を言っているのかわからないですが明るい感じで会話が進んだ後、実際に胸をチェックしてどういった術式で行うかガモン先生から説明があります。もちろん会話の合間で SRS ガイドセンターの山元さんから日本語説明が入るので何の話をしているか理解はできるので不安はなし。実際の胸を見た後は、ipad を使って子宮摘出方法についての説明がありました。本来ならここで子宮摘出の方法もして、全て終わるはずだと思いますが、私の場合は渡航後に腔式子宮附属器全摘での手術方法へ変更したため、実際にピッター先生とカウンセリングがありました。ピッター先生とは 14:00 過ぎにカウンセリング開始し、触診にて「腔式子宮附属器全摘手術」へ正式に変更することとなりました。その後、コンドータウンまで送ってもらい、翌日の手術が 13:00 ~ のためこの日の 24:00 以降は飲食禁止し就寝しました。

#### 1月17日 タイ滞在4日目(入院1日目)

朝、9:00 にコンドータウンまでお迎えあり。荷物を全て持って、病院(6F)に入院。まずは友人を見舞った後に、荷物の整理を始める。貴重品を個室にあるロッカーに預けた後、PC やウェットティッシュなどをサイドテーブルへ。11:00 ころに剃毛、浣腸を行う。12:00 ころに今度は点滴を打たれる。危惧していた通り、血管が細いため針を手首に刺す羽目に。一通り終わった後はオペまで時間があるのでこの間に PC のネット接続の設定や、雑用を済ませておく。私の場合は Pui さんに「手術が終わったら彼女に手術終了の報告をしたいから Pui さんから電話するか、Pui さんの帰宅後に自分が目を覚ますなら携帯を枕元に置いてほしい」とお願いをしておいた。

その後 13:30 ころにお迎えが来る。車いすに乗せられ、4F のオペ室へ。車いすからストレッチャーに自分の足で移動。ここで pui さんとはお別れ。ストレッチャーでオペ室に運ばれる。部屋はナースのタイ語が飛び交っているため何を話しているか全く不明。そうこうするうちに左右の腕を固定される。

10分弱すると、麻酔医の先生が来て、英語で名前を聞かれる。  
答えた後、左腕に麻酔を打たれる。その後、笑気マスクを口元に当てられ  
10秒弱で意識を失う。

次に目が覚めた時は周囲がとても騒がしく、朦朧としていたが、  
オペ前に Pui さんをお願いをしていたので  
携帯を渡され彼女に手術終了の報告のみをする。

またその際にメガネをもらい、またもや Pui さんとお別れ。

すぐにナースが来て

- ・自分がリカバリールームにいること。
- ・手術が終わったが気持ち悪くないか、痛くないか

等を英語で言われる。

私は痛みが少しあったので

「モルヒネプリーズ」と片言の英語で言ったがすぐに対応してくれた。

その後、2時間近くはウトウト寝入る。

19:00 過ぎに意識が戻ってきたので改めて、同行している友人に手術終了の電話と  
彼女に電話をかけたが、それ以外は基本的にウトウト モルヒネを打ってもら  
が続くので患部の痛み自体は全く感じずに夜を過ごす。

1月18日 タイ滞在5日目(入院2日目)

明け方リカバリールームから戻る。

当初、ナースには6:00に病室に戻ると言われたが

実際は5:30には病室に戻った。

(同じ日にリカバリールームにいた MTF さんも同じタイミングで病室に運ばれていた)

私はリカバリールームですでおならが出たから水の許可がすぐにおりる。

この日はドレーンと尿カテーテルと点滴が繋がっているため、

ベッドから動くことが出来ず、終日寝たきり。

この日の夜中に部屋のエアコンが壊れ温かい風しか来なくなる。

何度かナースコールを鳴らすも、壊れているのか誰も来ず。

ナースコールを押す 疲れて寝るを朝まで繰り返す最悪な夜になった。

#### 【入院食】

昼食：ミロ

夕飯：スープ

全て完食

#### 【体調】

熱は 37.5 前後

患部自体の痛みは特にないが、寝たきりのため腰痛が若干あり。

息を吸うと、肺の下部に若干の痛みがある。  
また腕の可動域は狭く、動かすのがしんどい。  
下腹部からの出血は特に感じず。

1月19日タイ滞在6日目(入院3日目)

朝、6:30過ぎに起床。  
朝食後、午前中にガモン先生の回診あり。  
ここでドレーンを抜かれる。ドレーンを抜くこと自体は  
「ぬるっと」した感じで痛み自体は激しくない。  
その後、日本でいうところのさらしを巻かれる。  
この日はとにかく頭が痛く、ベッドを上下に可動させるくらいで動くことが出来ず。

#### 【入院食】

朝食：中華風おかゆ  
昼食：中華風おかゆ  
おやつ：チョコケーキにオレンジジュース  
夕飯：温素麺  
1~3口で完食出来ず。ウィダーインゼリーを少しとポカリスエットを飲む。

#### 【体調】

熱は38.5 前後  
患部自体の痛みは特にないが、体を動かすことがだるい状態。  
息を吸うのも問題はなし。  
腕の可動域は変わらず狭く、動かすのがしんどい。  
下腹部からの出血は特に感じず。

1月20日 タイ滞在7日目(入院4日目)

前日と同様6:30過ぎに起床。  
朝食後、ナースが来て患部の消毒をする。  
午後に尿カテーテルが外れ、初めてベッドから起き上がる。  
個人差はあるだろうが、私の場合は特に貧血等もなくすぐに起き上がることができた。  
自分で行動することが可能になると復調の兆しが見える。  
ただ、食事の際に気持ち悪さが何度かきて実際に嘔吐する。  
夕飯から吐き気止めの薬が処方される。  
また夜に点滴も外れ、完全に自由に行動ができるようになる。

#### 【入院食】

朝食：パンにソーセージ、ハム、オムレツの洋風スタイル

昼食：寿司ロールとみそ汁(やよい軒のデリバリー)

おやつ：チョコケーキとオレンジジュース

おやつ2：Pui さんが買ってきてくれた甘くないアイスココア

夕飯：サバの塩焼弁当とみそ汁(やよい軒のデリバリー)

昼は2口程度で終了。ポカリスエットを飲む。夜は7割完食。

#### 【体調】

熱は37 後半を推移

患部自体の痛みは特にない。

腕の可動域は広くなり、体重等の負荷がかからなければ普通に動かす事が可能

ただし、腕を上挙げる動作はしんどい。

下腹部はトイレで拭くときに多少の出血が見られる。

1月21日 タイ滞在8日目(入院5日目)

前日と同様6:30過ぎに起床。

朝食が済んだ後に、ナースが来て患部の消毒をされる。

この日に洗髪もしてもらう。

その後、さらしからなベシャツの様なものを病院から支給され着る。

昼ごろに退院予定だったため、荷物をまとめ時間になるのを待つ。

昼食を受け取り(マクドナルドのデリバリー)そのまま退院。

その後、コンドータウンの周辺を30分弱歩くも体力的にしんどくなってきたため

コンドータウンに戻り、終日静養。

#### 【入院食】

朝食：パンにソーセージ、ハム、オムレツの洋風スタイル

昼食：マクドナルドのデリバリーセット

全て完食。

#### 【体調】

熱は37 中盤を推移

患部自体の痛みは特になく、頭痛も緩和されている。(多少は痛みがあり)

腕の可動域も少しであれば上に挙げることも可能。

下腹部はトイレで拭くときに多少の出血が見られる。

1月22日タイ滞在9日目(通院)

朝、9:30に迎えの車に乗り、ガモンクリニック3Fへ消毒に向かう。

消毒終了後は、自由行動。

私たちは昼ごはんを購入してコンドータウンへ。

夜、19:00 頃に徒歩 20 分程度の場所にある屋台へ。  
前日に比較すると体力的にもだいぶ回復しているので 1 時間程度散策をする。

【体調】

熱は 37 前半を推移

患部自体の痛みは特になく、日常生活はゆっくりの動作ではあるが問題なく行える。  
下腹部からの出血が多少多い時があったので生理用ナプキンを使用した。

1 月 23 日 タイ滞在 10 日目(通院)

朝、9:30 に迎えの車に乗り、ガモンクリニック 3F へ。

本来であれば翌日にフォローアップと抜糸だが、

友人と合わせたためフォローアップがこの日に。

ここでガモン先生から術後のケア等について聞く。

(入浴できる時期や、サポーターを付けている期間、薬の服用期間等。)

傷口の状態もよかったのでこの日に抜糸。

終了後は、自由行動。

私たちはタクシーにて買い物へ。

この日は体力もだいぶ回復している。

【体調】

熱は 37 前半を推移

患部自体の痛みは特になく、日常生活はゆっくりの動作ではあるが問題なく行える。  
下腹部からの出血が多少多い時があったので生理用ナプキンを使用した。

1 月 24 日 タイ滞在 11 日目(通院後、帰国)

朝、9:30 に迎えの車に乗り、ガモンクリニックへ。

3F で消毒後、コンドータウンへ。

滞在中に借用していた携帯やタイのガイドブックを返却。

自分の荷物をピックアップ後、空港へ。

チェックインまで終わらせて送ってくれた山元さんとお別れ。

日本へ帰国。

【体調】

熱は 36.5 前後を推移

患部自体の痛みは特になく、日常生活もだいぶ普通に行えるようになる。

下腹部からの出血が多少多い時があったので生理用ナプキンを使用した。

## 全般的な所感

### 体調管理

術後の体調管理はナースが行ってくれるが、検温等は計測する時間も短く、ポーっとしていると自分の体温等を知ることなく終わるのでいつでも計測できるように自分の体温計を持っていくとよいと思う。また私は手術後に原因不明の頭痛に見舞われしんどかったです。日本から持っていった鎮痛剤(ロキソニン)も効かず、体を休ませていると締め付けるような痛みが断続的に襲って来ました。偏頭痛持ちでもないのに、非常に不安でしたが体を動かせるようになってからは気が紛れたのもあり痛みは緩和されていきました。帰国後にホルモン注射を打った際に相談したら、急激なホルモンバランスの変化による更年期障害の一種だと思われる。とのことでした

### 食事

病院食で合わない時は素直に食べないで日本食を依頼するとよいです。また、水以外は何を飲んでも基本的に甘いです。術後、すぐにポカリスエットを飲む場合は入院前のコンドータウンで何本かストックを作って病室に入れておくとう便利だと思います。入院中以外はタイ料理に少しでも不安のある人はある程度日本食を持っていった方がよいと思いますが、ファストフードに抵抗のない人は外食も充実しているので近所でなにかしら食べることが出来ると思います。

### コンドータウンについて

普通の1DKタイプの部屋なので友人と一緒にのパッケージで行く場合は手術後というのもあるので気心がしれている相手じゃないときついと思う。またベッドルームはエアコンが直撃なので苦手な人はリビングにある扇風機を寝室に移動して活用するなどすると良いと思われる。部屋自体には一通りの生活用具が揃っているので安心できる(日本で言う、ウィークリーマンションに宿泊している感じ)テレビ、ネット環境も日本と同じようにストレスなく使えるのは良かった。

### その他(注意点)

入院したら手術後に必要な荷物(鏡、ウエットティッシュ、PC)は急な時間変更等を考慮してなるべく早めに必ずサイドテーブル等に出しておくとうよいです。またPCはACも繋げておいた方が手術後に自由に使えると思います。

写真(次のページにあります。)

SRS センターからの借用品



処方される薬





術前



術後 10 日経過



膣式子宮卵子摘出後写真

